





図 2. RefWorks 概念図

## 2. クリニカルクエスチョンの作成

- 1) 病因・危険因子、診断、治療、予後、支援、その他
- 2) クリニカルクエスチョン（一つのセンテンスを疑問文で表現する）を次の4項目に関する語句を含むように作成する。

①疾患/病態 ②予知因子：介入 ③対照 ④エンドポイント（アウトカム）

## 3. 検索の実行

- 1) 対象とするデータベースの選択  
PubMed、医学中央雑誌、雑誌記事索引（国立国会図書館）、福祉系データベース、教育系データベース、心理学系データベース、大学紀要データベース
- 2) 予備検索
- 3) 最終文献以降の調査
- 4) クリニカルクエスチョンごとに検索を実行

## IV. 文献の選択

1. 条件
  - 1) 言語：日本語、英語
  - 2) 期間：過去10年（1996年－2006年）
  - 3) 人を対象とした研究

- 4) クリニカルクエスションに対応している
- 5) 委員会が特別に指定する条件
- 6) 予防、治療、診断、予後、病因、医療の質の向上あるいは持続的教育に関する研究、医療保健プログラムあるいは介入の経済に関する研究、システマティックレビューあるいはメタアナリシス
- 7) 意味をもつ文献であるか

## 2. 選定

- 1) レビューアーの選任

## 3. 文献の収集

- 1) 委託

## V. 文献評価

### 1. 論文データの抽出、テーブル化

- 1) 研究デザイン (meta-analysis, randomized controlled trial, clinical controlled trial, cohort study, case-control study, cross-sectional study, case series study, case study, その他)
- 2) 対象者
- 3) サンプルサイズ
- 4) 追跡率
- 5) 予知因子：介入/要因暴露と対照
- 6) エンドポイント (アウトカム)
- 7) 主な結果
- 8) 効果指標値 (95%信頼区間)

## VI. 文献データベースの構築

### 1. 入手した文献データ (書誌データ) のデータベース

- 1) 協同でデータを参照するためのデータベースを使う (ex. Ref/Share)  
公開用には用いたデータベースから公開用のシステムへの変換。
- 2) 独自に開発
- 3) 既存のプロジェクトと交渉 (Minds プロジェクト、国際医学情報センターなど)

### 2. 入手した文献自体の保存

- 1) 著作権を考慮
- 2) PDF化する
- 3) 文献データとリンク付け (非公開のための ID/PW などの管理)
- 4) 一般公開されている文献と文献データとのリンク

5) サーバの確保、メンテナンス、技術的サポート

### 3. データベースの公開

- 1) 書誌データベースを一般公開するための仕組みを検討する  
公開（専門家向け、一般向け、などのレベル）
- 2) 公開用システムの構築

### 4. データベースの構築委託

## VII. まとめ

既存のデータベースの特徴を概観した上で、本研究の目的とするデータベースの構築方法に合致した文献調査方法および文献管理システムを検討した。RefWorks を用いることで、各分担研究者が検索した文献情報を共有でき、それぞれが外部から情報を更新することが可能となる。本調査結果は、発達障害分野の国レベルでの調査研究成果として大変貴重なものであると考えられるため、今後は、情報公開に向けたシステム構築を目指したいと考えている。